

第1回区民会議（試行）についての傍聴者アンケートから

1 はじめに

第1回区民会議（試行）について傍聴者から、7区合計で61件のアンケートが寄せられた。アンケートの設問は、各区で若干の差異があったことから単純な比較はできないが、多くの区に共通する設問への回答及び今後の制度設計につながると考えられる意見を中心に、制度化に向けての検討や、今後の会議運営に資するため、論点の整理等に活用していきたい。

また、寄せられたアンケートの回答からは、区民会議制度が目指す方向や区民会議のイメージが、市民に十分伝えきれていないことがうかがわれたことから、今後、制度化に向けた議論を多くの市民と共有するために、市民への広報をよりわかりやすく行い広く理解をいただく中で、さらに多くの市民からの意見を制度検討に活かせるようにしていく必要がある。

2 アンケート結果

（1）アンケート回答数（合計61件）

川崎区 2件
幸区 3件
中原区 4件
高津区 5件
宮前区 21件、
多摩区 10件
麻生区 16件

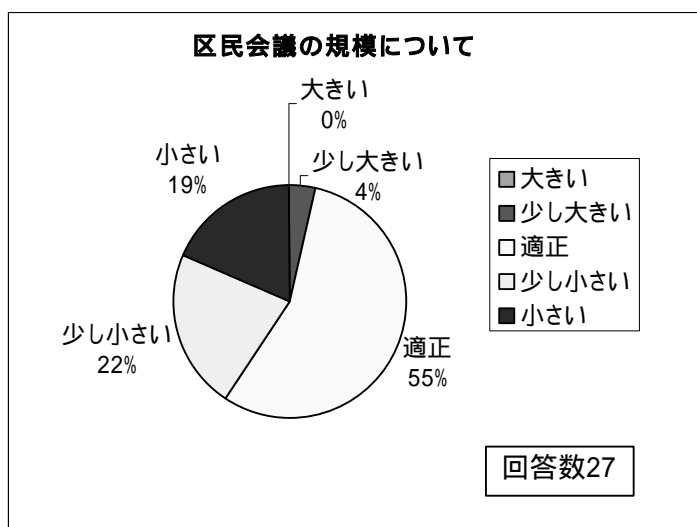
（2）区民会議にどのようなことを期待しているか。

アンケートの回答からは、区民の声を区民会議の審議に反映すること、区民会議の場で活発な議論を行うこと、審議結果の実効性を担保すること等に期待する意見が見られた。

（寄せられた意見の一部）

- ・区民による区民のための課題解決を期待したい。
- ・市民が自治していくこと、市民社会を強くしていくことを目標に、行政主導でない運営を期待する。
- ・大いに期待する。それは住民自治、市民自治の具体的第1歩が始まったから。
- ・設置目的の達成のために、会議メンバーの積極的・活発な意見交換を。
- ・区民が実質的に政策形成に参加できる場となることを期待する。

(3) 区民会議の構成について



(3) の設問を設定した区：川崎区、高津区、多摩区、麻生区

会議の規模については、回答の55%が「適正」であったとした。一方で、「小さい」と「少し小さい」を合計すると41%であった。その理由として、公募委員及びテーマ型市民活動団体からの委員が少ないとの意見があった。また、広聴機能を重視した横浜市などの例を挙げ、応募した市民を原則として全員委員にすべきだとの意見も見られた。このことから、会議の規模については、回答者のもつ区民会議のイメージによって異なると考えられる。

委員の構成については、世代、男女のバランスのほか、多様な立場からの参加を求める意見が寄せられた。

(寄せられた意見の一部)

- ・テーマ型活動区民の声も反映させるべき。
- ・女性・男性のバランスが悪い。若い世代(学生など)の参加も必要。
- ・議題テーマによって、できれば委員と同格の外部関係者を入れるべき。
- ・委員に大学関係者&外国人代表者が就任されたことは、他区に例を見ないユニークな構成でとても良い。
- ・マイノリティー分野の人(障害者、高齢者、外国人、学生、子育て中の親など)の参加と参加しやすい工夫。

区民会議参与の立場についての意見からは、区民会議参与の位置づけ及び役割について議会において説明を行った「委員とは異なる立場」を、市民に対しても十分に説明し理解をいただく中で、今後の本実施に向けた検討をしていく必要があると考えられる。

(寄せられた意見の一部)

- ・区民会議における参与の立場が不明確で、意見を述べるとしても個人的なものなのか、各会派を代表してのものなのか、今後の課題になると思う。

(4) 区民会議の審議事項について

区民会議で取り組んでほしいテーマについては、区ごとに選択肢の設定が異なっていたため、正確な集計はできないが、全体として安全・安心な地域生活環境づくり、子育て支援、市民活動支援に関連するテーマへの関心が高かったと受け止めている。

審議事項については、審議事項選定のプロセスを透明にすること及び制度設計について区民会議の場で審議すべきとの意見をいただいた。一方で、制度論に時間を割くべきでないという意見もあった。制度設計に関しては、試行における課題解決のための審議を通じて固められる部分もあると考えられるが、区民会議制度の根幹に関わる部分については、第2回以降の試行において、審議のための時間を用意する必要があると受け止めている。

(寄せられた意見の一部)

- ・今後、委員から多様な事項が提案された時、審議事項等をどのような手段で取り上げるのか課題である。
- ・制度運用についての協議が区民会議でされなかった。このことが一番大切であり、市民が参画して町の課題を解決していく仕組みが必要であると思った。
- ・形式ばかりにとらわれず、又、“形式”についての議論に長い時間をさいてほしくない。
- ・もし、賛成・反対の採決をとる場面があるとすると、採決方法はどのようなのか。
- ・市民の課題＝テーマをどう集約するのか。もっと具体的な方法を会議で決めるべき。

(5) 区民会議の運営について

審議方法

区民会議の審議方法は、各区がそれぞれの状況に応じて組み立てていることから、一概に比較することはできないが、委員相互間の活発な意見交換を望む声が複数の区で見られた。その理由として、事務局説明の長さを指摘した回答も見られたが、第1回試行では、区民会議の趣旨や課題の概要を説明する必要があったことから、説明のために多くの時間を費やすことが避けられなかったためではないかと考える。第2回以降は、より委員同士の活発な議論を促すような会議運営を検討する必要があると考えられる。

区民会議参加が発言することについては、傍聴者アンケートの回答が分かれた。出席しているのだから発言してもいいのではないかと、との意見の一方で、区民会議をリードするほど積極的に発言するべきではないとの意見も見られた。

(寄せられた意見の一部)

- ・区民の実践に基づく説明は良かった。
- ・委員相互間の活発な意見交換、アイデアを出し合うような運営を(行政との質疑中心ではなく)。
- ・要望型の意見になってしまっている。市民として、自分たちが課題解決しようという意気込みのある方に委員になってもらいたい。
- ・初回ということで仕方ないのかもしれないが、事務局の説明が長くて、活発な議論がなされず残念だ。
- ・参与からの意見より、区民の方からの積極的発言を期待したい。
- ・参与にも課題などについて、一言発言してもらいたい。

会議開催日や時間帯について

開催日や時間帯は、委員や参与の方々との調整と、傍聴のしやすさなど参加機会への配慮との両面から検討する必要があると考えられる。今回のアンケートの結果からは、一概に判断することは困難であるが、今後、各区の状況や取り上げる審議課題等に応じた、柔軟な対応を検討する必要があると思われる。

(寄せられた意見の一部)

- ・平日の参加は、サラリーマン等が参加しにくいいため、土・日曜日開催や回数を増やすことが必要ではないか。
- ・時間帯(平日午後2時から)は子どもがいても出席できる。保育付なので出席できる。

区民会議の運営についてその他意見

(寄せられた意見の一部)

- ・机(イス等)の配置がおかしい。一般区民の傍聴席が行政マンより後方という形はいかかなものか。
- ・区民に対してもっとわかりやすい広報をすべきだと思う。開かれた区民会議に。誰もが興味をもつ区民会議にする工夫が必要と思う。
- ・この会議のため、職員がこんなにたくさん出席する必要があるのだろうか。非常に無駄遣いのような気がする。

(6) その他意見

(寄せられた意見の一部)

- ・課題提起の後、解決策について討論してほしい。委員提案を期待したい。
- ・区民会議では決定することはできないのか?着地点をもっと明確にしないと、言いつ放しになってしまう。
- ・試行期間における区民会議の制度設計に当たっては、区民会議委員の意見だけでなく、広く区民からの提案を入れて議論し、設計してほしい。